Canon

EOS D6000/D2000

取扱説明書改版

ファームウェアVersion 3.XX

カメラ本体のファームウェアのアップデートにより、追加になった新機能および変更になった内容について説明します。

J

日本語

この説明書はEOS D6000/D2000取扱説明書の改訂版です。次のような内容が含まれています。

- **カメラ本体のファームウェアVersion 3.XX以降で追加された新機能**
- **ドライバ説明書および取扱説明書から変更になった内容**

目 次

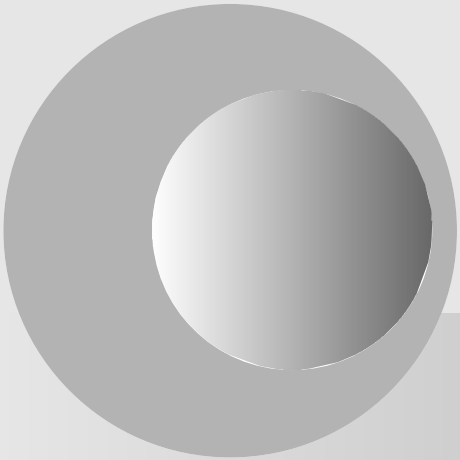
第１章
追加された新機能

新機能について.....1-2
新カラーモニター表示.....1-3
アイコンメニュー..... 1-3
カラーモニターの基本操作..... 1-5
デュアルPCカードスロット..... 1-9
PCカードとフォルダーの選択..... 1-10
画像を消去する..... 1-12
PCカードのフォーマット..... 1-14
JPEGファイル処理機能..... 1-17
ファイル処理を行う..... 1-19
ファイル処理の設定を変更する..... 1-23
TIFF Custom形式の画像をパソコン上で処理する..... 1-25
カスタムホワイトバランス..... 1-26
カスタムホワイトバランスを選択する..... 1-27
ホワイトバランスを設定する..... 1-27
インターバル撮影..... 1-32
消去した画像を復元する（リカバリー機能）..... 1-35
ネームプレート機能..... 1-37
GPS機能..... 1-38
IPTCデータ対応.....1-41
シャープニング機能.....1-43
カメラ本体の設定.....1-44
ドライバの設定.....1-46

第２章
マニュアルの改訂

ドライバ説明書の改訂..... 2-2
EOS D2000..... 2-2
EOS D6000..... 2-2
EOS D6000およびEOS D2000..... 2-2
取扱説明書の改訂..... 2-3
EOS D6000.....2-3
EOS D6000およびEOS D2000.....2-3

第1章
追加された新機能



この章ではファームウェアをVersion 3.XXにアップデートしたときに追加される新機能について説明します。

新機能について

ファームウェアVersion 3.XXでは次のような機能が追加されました。

- 使いやすさを考慮した新カラーモニター表示（1-3ページ）
- 2枚のPCカードが使えるデュアルPCカードスロット（1-9ページ）
- Photoshopなどの画像アプリケーションで直接開くことのできるJPEGファイル処理機能（1-17ページ）
- 10種類のカスタムホワイトバランスの設定をカメラ本体に読み込めるカスタムホワイトバランス機能（1-26ページ）
- 指定した時間間隔で自動的に撮影するインターバルタイマー機能（1-32ページ）
- 一度消去した画像を復元する画像リカバリー機能（1-35ページ）
- カメラの所有者を明確にできるネームプレート機能（1-37ページ）
- 撮影したロケーションの緯度、経度を記録できるGPS機能（1-38ページ）
- 国際新聞電気通信評議会（IPTC）に準拠したIPTCデータ対応（1-41ページ）
- 赤外カットローパスフィルターを装着した状態で撮影した画像をシャープにするシャープニング機能（1-43ページ）

新カラーモニター表示

より使いやすくするため、より多くの情報を画面に表示できるように、カラーモニターのアイコンメニューを変更しました。ここでは、新しくなったアイコンメニューの使いかたと新しく追加になった情報表示機能（ステータスバー）について説明します。

アイコンメニュー

カラーモニターの表示エリアを有効に利用するため、アイコンメニューは必要なときのみ表示されます。
モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押して、カラーモニターをオンすると、最初にアイコンメニューが表示されていない画面が表示されます。カラーモニターがオンになっている状態で、もう一度、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押すと、アイコンメニューが表示されます。

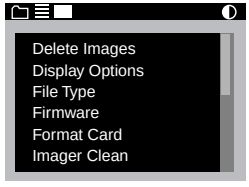
モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを長めに押すと、カラーモニターがONすると同時にアイコンメニューが表示されます。

従来のアイコンメニュー表示：

新しいアイコンメニュー表示：

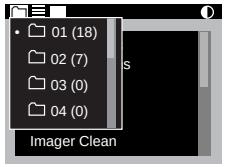
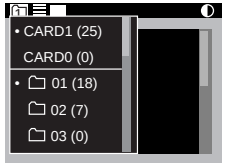
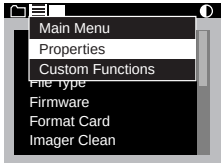
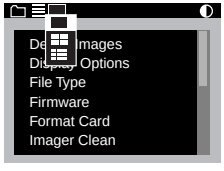
新しいアイコンメニュー表示では、使用頻度の高いアイコンメニューが左側に配置されています。また、モニターコントラスト調整アイコンは右側に配置されています。

アイコンメニューが表示されているときは、カラーモニターに表示されていた画面はグレーアウト状態（コントラストが下がった状態）となります。



新しいアイコンメニューの内容

アイコンメニューを選択すると、次のようなドロップダウンメニューが表示されます。

アイコンメニュー		ドロップダウンメニュー	内　容
	フォルダー設定アイコン	PCカードを1枚セットしている場合：  PCカードを2枚セットしている場合： 	フォルダー選択メニューが表示されます。（取扱説明書2-30ページ「保存フォルダーの選択」参照）
	メニューアイコン		メインメニュー（Main Menu）、プロパティ（Properties）、カスタムファンクション（Custom Functions）の選択メニューが表示されます。
	画像表示モードアイコン		画像表示モードの選択メニューが表示されます。（取扱説明書8-3ページ「レビュー（画像表示）モードを設定する」参照）

モニターコントラスト調節アイコン（◐）を選択すると、カラーモニターのコントラストを調節できます。詳しくは、取扱説明書の2-20ページ「コントラストの調節」を参照してください。

カラーモニターの基本操作

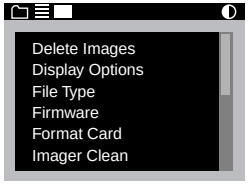
新しくなったカラーモニターの操作方法について説明します。

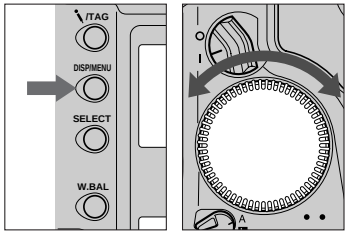
アイコンメニューを選択する

カラーモニター上方に表示されているアイコンメニューは次の手順で選択します。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながらサブ電子ダイアルを回して、選択したいアイコンメニューを反転表示させます。**

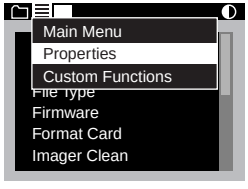
ボタンを押しながらダイアルを回す操作で、アイコンメニューを選択することができます。

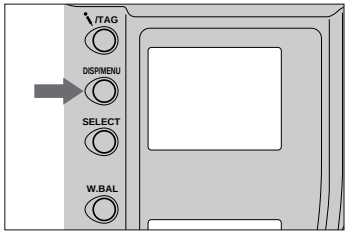




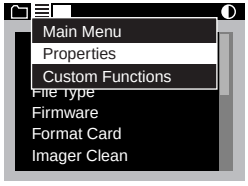
2 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

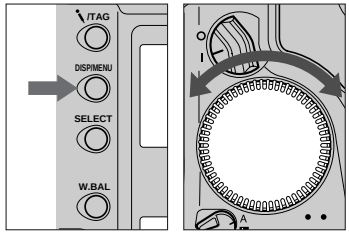
アイコンメニューを反転表示してからドロップダウンメニューが表示されるまでの時間を設定することができます。設定のしかたについては、1-7ページ「ドロップダウンメニューが表示されるまでの時間を設定する」を参照してください。





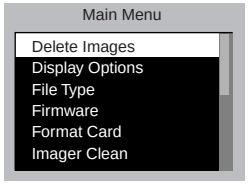
3 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、選択したいドロップダウンメニューの項目を反転表示させます。**

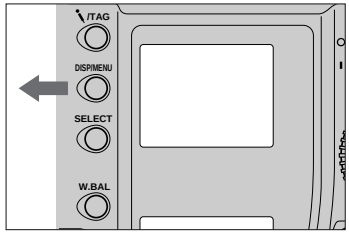




4 **選択したい項目を反転表示させた後、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**

ボタンを離すことで、反転表示させたドロップダウンメニューの項目を選択したことになります。





メインメニューやプロパティ、カスタムファンクションの項目を選択したり、項目の設定値を変更する操作は従来通りです。取扱説明書の2-19ページ「項目を変更したり、設定値を変更したりする」を参照してください。

ドロップダウンメニューが表示されるまでの時間を設定する

アイコンメニューを反転表示してからドロップダウンメニューが表示されるまでの時間を設定することができます。初期値は「3」（750msec）に設定されています。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

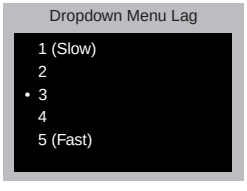
3 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、プロパティ（Properties）を反転表示させます。**

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
プロパティメニューが表示されます。

6 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Dropdown Menu Lagを反転表示させます。**

7 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
ドロップダウンメニューが表示されるまでの時間を設定する画面が表示されます。現在設定されている値に（●）が表示されています。



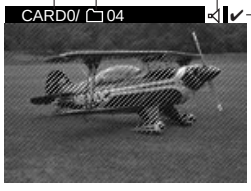
8 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、ドロップダウンメニューが表示されるまでの値を反転表示させます。**
値を大きくすると、ドロップダウンメニューが表示されるまでの時間が短くなり、値を小さくすると、時間が長くなります。

9 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
値が確定し、プロパティメニューが表示されます。

情報表示機能（ステータスバー）

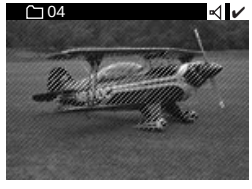
カラーモニターに画像を表示させているとき、カラーモニター上方に画像の情報が表示されます。4画面モードや9画面モード表示になっている場合は、現在選択されている画面の情報が表示されます。

PCカードを2枚セットしている場合：



- PCカードが2枚セットされている場合、表示されている画像の保存されているPCカードが表示されます。（CARD0、CARD1）
- 表示されている画像の保存されているフォルダーが表示されます。
- 表示されている画像に音声ファイルがある場合、サウンドアイコン（ ）が表示されます。
- 表示されている画像にタグが付いている場合、タグアイコン（ ✔ ）が表示されます。

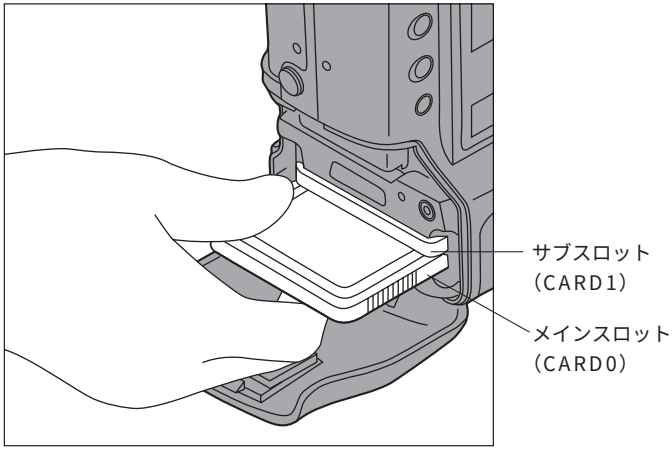
PCカードを1枚セットしている場合：



サウンドアイコンについては、取扱説明書8-13ページ「画像に音声を録音する」を参照してください。また、タグアイコンについては、取扱説明書8-12ページ「画像にタグを付ける」を参照してください。

デュアルPCカードスロット

PCカードスロットのサブスロット（上段）が使用可能になりました。これによりType IIのPCカードが2枚同時にセットして使用できます。Type IIIのカードは従来通り1枚セットできます。PCカードスロットは下段がCARD0（メインスロット）、上段がCARD1（サブスロット）となります。



PCカードの挿入のしかたについては、取扱説明書2-15ページ「PCカードの取り扱い」を参照してください。1枚のカードをセットする場合は、メインスロット（CARD0）またはサブスロット（CARD1）のどちらでもセットできます。2枚のカードをセットする場合は、最初にセットしたカードがアクティブPCカードとして認識されます。画像を取り込んだり、消去すると行った操作は、このアクティブPCカードに対して実行されます。

2枚のPCカードをセットして使用する場合、次の操作が取扱説明書に説明されている操作と異なります。

- PCカードとフォルダーの選択（1-10ページ）
- 画像を消去する（1-12ページ）
- PCカードのフォーマット（1-14ページ）

このカメラで使用できるPCカードは3Vタイプと5Vタイプです。PCカードを2枚セットするときは、同じタイプのPCカードを必ず使用してください。違ったタイプのPCカードを2枚セットするとどちらのPCカードも使用できません。そのとき、カラーモニターに「Card Voltage Mix」のメッセージが表示されます。どちらかのカードを取り出すと、もう一方のカードが使用できるようになります。

PCカードとフォルダーの選択

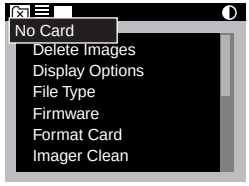
PCカードのフォルダーは次の手順で選択します。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

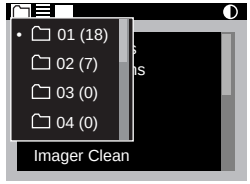
2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、フォルダー設定アイコン（🗀）を反転表示させます。**

3 **フォルダー選択メニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

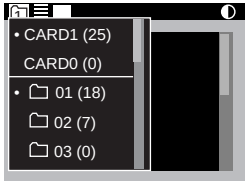
● **PCカードがセットされていない場合**
フォルダー設定アイコンの中に「×」が表示されます。この場合、フォルダーを選択することはできません。



● **PCカードが1枚セットされている場合**
PCカード上のフォルダーメニューが表示されます。現在選択されているフォルダーに（●）が表示されます。



● **PCカードが2枚セットされている場合**
PCカードと選択されているカード上のフォルダーが表示されます。
現在選択されているPCカードとフォルダーに（●）が表示されます。



メニューに表示されているフォルダーは、現在選択されている（●が付いている）PCカード上のフォルダーです。PCカードの選択を変更すると、メニューに表示されているフォルダーも変わります。

また、（ ）内の数字はPCカードやフォルダーに保存されている画像の枚数です。

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、選択したいPCカードやフォルダーを反転表示させます。**
PCカードを2枚セットしている場合は、最初にPCカードを選択してから、フォルダーを選択します。選択したPCカードがアクティブカードとなります。
PCカードを1枚セットしている場合は、フォルダーを選択します。

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
PCカードやフォルダーが選択されます。

画像を消去する

ここではPCカードを2枚セットしている場合の消去方法について説明します。
PCカードを1枚セットしている場合の消去方法については、取扱説明書8-15ページ「画像を消去する」の手順を参照してください。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **PCカード上の画像を消去するときは、PCカードを選択します。**
（1-10ページ「PCカードとフォルダーの選択」を参照）

3 **フォルダー内の画像を消去するときは、フォルダーを選択します。**
（1-10ページ「PCカードとフォルダーの選択」を参照）

4 **消去したくない画像があるときは、その画像にタグを付けます。**
タグを付けた画像は、一括消去の対象から外すことができます。（取扱説明書8-12ページ「画像にタグを付ける」を参照）

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

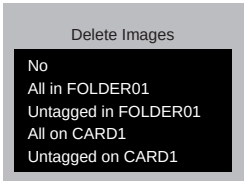
6 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

7 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、メインメニュー（Main Menu）を反転表示させます。**

8 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
メインメニューが表示されます。

9 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、画像消去（Delete Images）を反転表示させます。**

10 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
画像消去のサブメニューが表示されます。



11 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、目的の消去方法を反転表示させます。**

項　目	内　容
No	画像の消去を行いません。
All in FOLDER...	現在選択されているフォルダー内の画像をすべて消去します。
Untagged in FOLDER...	現在選択されているフォルダー内の画像のうち、タグが付いていない画像をすべて消去します。
All on CARD...	現在選択されているPCカード上の画像をすべて消去します。
Untagged on CARD...	現在選択されているPCカード上の画像のうち、タグが付いていない画像をすべて消去します。

「All on CARD...」や「Untagged on CARD...」を選択すると、選択されているPCカード上のすべてのフォルダー内の画像が消去対象となります。これらの消去を実行するときは、十分にご注意ください。

12 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
消去確認画面が表示されます。

13 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Yesを選択します。**
消去を中止する場合は、ここでNoを選択してください。

14 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
Yesを選択した場合、画像が消去されます。
その後、メインメニューが表示されます。

PCカードのフォーマット

PCカードを2枚セットしている場合、誤ってPCカードをフォーマットしないように、フォーマットの必要のないPCカードはカメラ本体から取り出してください。
PCカードは「Quick Format」と「Full Format」の2種類の方法でフォーマットすることができます。

- Quick Formatは、短時間でフォーマットできますが、カード内のデータが壊れることがあります。通常の場合は、Full Formatでフォーマットすることをおすすめします。
- PCカードをフォーマットするとPCカード上のすべての保存データが消えてしまいますのでご注意ください。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

3 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、メインメニュー（Main Menu）を反転表示させます。**

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
メインメニューが表示されます。

6 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Cardを反転表示させます。**

7 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
カードメニューが表示されます。

8 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Quick FormatまたはFull Formatを反転表示させます。**

9 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**

● **PCカードが2枚セットされている場合**
現在選択されていないPCカードを取り出すことを促すメッセージが表示されます。たとえばCARD1が選択されている場合、次のような画面が表示されます。

選択されていないPCカードを取り出し、「Retry」ボタンを選択すると、カードメニューが表示されます。手順8から操作しなおしてください。

間違って選択されているPCカードを取り出したときは、次のような画面が表示されます。

フォーマットするPCカードをセットし、「Retry」ボタンを選択すると、カードメニューが表示されます。手順8から操作しなおしてください。

● **PCカードが1枚セットされている場合**
フォーマットの確認画面が表示されます。

10 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Yesを選択します。**
フォーマットを中止する場合は、ここでNoを選択してください。

11 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
Yesを選択した場合、フォーマットが開始されます。

12 **フォーマットが終了すると、確認画面が表示されます。**

13 **セレクト（SELECT）ボタンを押します。**
メインメニューが表示されます。

JPEGファイル処理機能

EOS D2000では、Photoshopなどの画像アプリケーションで画像を直接開くことのできるJPEGやTIFF RGB形式に変換するファイル処理機能がサポートされました。この機能は、EOS D2000のみの機能で、現在EOS D6000ではサポートされていません。

- ファイル処理機能で変換できる画像形式は、「JPEG Good」、「JPEG Better」、「JPEG Best」および「TIFF RGB」です。TIFF RGB形式は画像を圧縮しません。またJPEG形式は、「Good」が圧縮率が高く、「Best」が低くなります。圧縮率が低いと画像の品質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。
  圧縮した画像のファイルサイズは、画像の内容によって変わります。

- ファイル処理機能のオン／オフにかかわらず、撮影した画像は、現在選択されている保存フォルダーにTIFF Custom形式で保存されます。その後、ファイル処理機能がオンの場合、設定されている画像形式に変換され、再度PCカードに保存されます。

- ファイル処理を行った後、JPEG形式の画像は、「JPEG」フォルダーに保存されます。また、TIFF RGB形式の画像は、「TIFF」フォルダーに保存されます。これらのフォルダーは、ファイル処理機能をオンにしたとき、PCカード上にフォルダーが存在しない場合に自動的に作成されます。
  保存フォルダーにこれらのフォルダーを選択し撮影すると、JPEGフォルダーやTIFFフォルダーには保存できない旨のメッセージが表示されます。このとき、撮影した画像は「電源を入れたとき保存フォルダー」に設定されているフォルダーに保存されます。（取扱説明書10-24ページ「電源を入れたときの保存フォルダーを設定する」参照）

- ファイル処理を行った後、変換前のTIFF Custom形式の画像を保存するか消去するかの設定をすることができます。また、変換前のTIFF Custom形式の画像にタグを付けたり、指定したフォルダに移動するなどの処理を行うこともできます。（1-23ページ参照）

- ファイル処理機能の初期設定はオフです。ファイル処理機能をオンにした場合、ファイル処理機能をオフにするか、PCカードを取り出すまで、オンの状態になっています。

2枚のPCカードをセットしたときのファイル処理機能について

カメラ本体に2枚のPCカードをセットしている場合、ファイル処理機能をオンにすると、現在選択されているPCカードに対してのみファイル処理が行われます。ファイル処理は、2枚のPCカードに対して一度に行うことはできません。

また、ファイル処理機能がオンの状態でもう一方のPCカードを選択した場合、ファイル処理は先に選択されていたPCカードに対して行われます。たとえば、CARD0のPCカードが選択されている状態で、ファイル処理機能をオンにした場合、CARD1のPCカードを選択してもファイル処理はCARD0に対して行われます。CARD1のPCカードに対してファイル処理を行いたい場合は、いったんファイル処理機能をオフにしてから、CARD1のPCカードを選択しなおし、もう一度ファイル処理機能をオンにしてください。

ファイル処理を行う

ファイル処理を行う画像を選択します。また、変換する画像形式を設定します。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

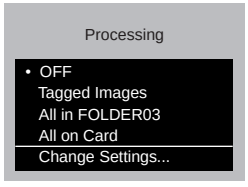
3 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、メインメニュー（Main Menu）を反転表示させます。**

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
メインメニューが表示されます。

6 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Processingを反転表示させます。**

7 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
ファイル処理画面が表示されます。

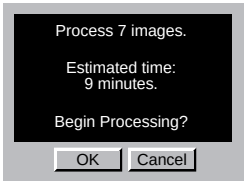


8 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、ファイル処理する画像の条件を反転表示させます。**

項　目	内　容
OFF	ファイル処理を行いません。
Tagged Images	タグの付いた画像をすべてファイル処理します。
All in Folder	保存フォルダーに設定しているフォルダーの画像をすべてファイル処理します。
All on Card	選択されているPCカードの画像をすべてファイル処理します。
Change Settings	選択すると、ファイル処理の条件を設定する画面が表示されます。ここで、変換画像形式などを設定します。設定については、1-23ページ「ファイル処理の設定を変更する」を参照してください。

9 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**

OFF以外を選択した場合、ファイル処理の確認画面が表示されます。

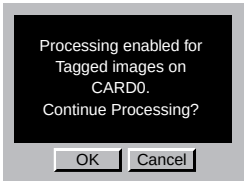


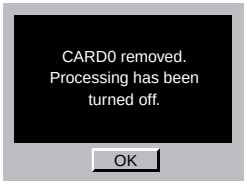
10 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、OKまたはCancelを選択します。**

OKを選択した場合、バックグラウンドでファイル処理が始まります。その後、メインメニューが表示されます。

ファイル処理できなかったときの画面表示

何らかの原因でファイル処理できなかったときは、カラーモニターに次の表のようなメッセージが表示されます。

状態	画面表示	対処
PCカードがセットされていない場合		—
ファイル処理機能をオンにしたとき、選択されているフォルダーに処理する画像が存在しない場合 All in Cardを選択したときでPCカードに画像が存在しない場合や、Tagged Imagesを選択したときでタグが付いている画像が存在しない場合も同じような画面が表示されます。		ここでOKを選択すると、新たに撮影した画像がファイル処理されます。 All in Cardを選択しているときも同様です。Tagged Imagesを選択しているときは、新たに撮影した画像にタグを付けた場合にファイル処理されます。 ここでCancelを選択すると、ファイル処理機能がオフになります。
ファイル処理機能をオンにしたとき、選択されているフォルダーに保存されている画像がすべてファイル処理されている場合 All in Cardを選択したときでPCカードに未処理の画像が存在しない場合や、Tagged Imagesを選択したときでタグが付いている未処理の画像が存在しない場合も同じような画面が表示されます。		
2枚のPCカードをセットしているときで、1枚のPCカードに対してファイル処理を行っているとき、もう一方のPCカードを選択した場合		ここでOKを選択すると、先に選択していたPCカードでファイル処理が続行されます。 ここでCancelを選択した場合、ファイル処理機能がオフになります。再度、ファイル処理機能をオンにすると、現在選択されているPCカードでファイル処理が行われます。

状態	画面表示	対処
ファイル処理の設定で「撮影したオリジナルの画像を消去する」を選択した場合（1-24ページ参照）		ここでOKを選択すると、もう一度確認画面が表示されます。 ここでCancelを選択すると、ファイル処理機能がオフになり、ファイル処理画面が表示されます。（1-19ページ参照）
選択されているPCカードの容量がいっぱいになり、ファイル処理ができない場合 PCカードがセットされている枚数にかかわらず発生します。		―
ファイル処理機能をオンにしている最中にPCカードを取り外した場合		―

ファイル処理の設定を変更する

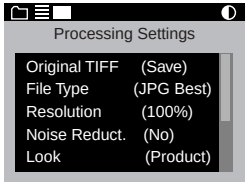
ファイル処理の設定を行います。

1 **「ファイル処理を行う」（1-19ページ）の手順1～6を行います。**

2 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Change Settingsを反転表示させます。**

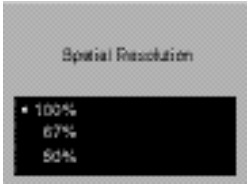
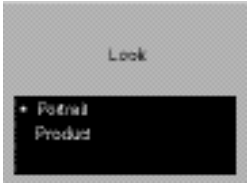
3 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**

ファイル処理設定画面が表示されます。
（ ）内に現在の設定が表示されています。



4 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、変更したい項目を反転表示させ、セレクト（SELECT）ボタンを離します。**

次の表のような画面が表示されます。現在の設定に（●）が表示されています。

項　目	画　面	設定値	内　容
Original TIFF		Save*	撮影したオリジナルの画像（TIFF Custom）を保存します。
		Delete	撮影したオリジナルの画像（TIFF Custom）をファイル処理後、消去します。
File Type		JPEG Best* JPEG Better JPEG Good TIFF RGB	変換する画像形式を設定します。
Spatial Resolution		100%*	オリジナルの画像と同じサイズ、同じ解像度で変換します。
		67%	オリジナルの画像のサイズと解像度を2/3にして変換します。
		50%	オリジナルの画像のサイズと解像度を1/2にして変換します。
Noise Reduction		Yes*	変換したイメージのノイズを低減します。
		No	ノイズを低減しません。
Look		Portrait	明るい部分と影の部分のコントラストを下げます。
		Product*	コントラストを上げ色調を鮮やかにします。
Sharpening Level		None	変換した画像にシャープニング効果をかけません。
		High Medium* Low	変換した画像にシャープニング効果をかけます。

*は初期設定値です。

TIFF Custom形式の画像をパソコン上で処理する

カメラ本体でファイル処理を行わない場合でも、次のソフトウェアを使用するとパソコンでファイル処理を行うことができます。

- **File Format Module**
  TIFF Custom形式の画像をPhotoshopで直接高解像度で開くことのできるアプリケーションです。

- **ドライバ（DCS Acquire ModuleおよびDCS TWAIN Data Source）**
  TIFF Custom形式の画像をフル機能で編集、パソコンへ取り込むことのできるアプリケーションです。

File Format Moduleは、DCS Acquire ModuleおよびDCS TWAIN Data SourceのVersion 5.8以降のソフトウェアCD-ROM（本体に付属）に入っています。それ以前のVersionのソフトウェアCD-ROMには入っていません。

ドライバ（DCS Acquire ModuleおよびDCS TWAIN Data Source）は、カメラから画像を読み込むときに、最適な画質になるように処理をします。そのような処理が必要でない場合は、File Format Moduleを使用してください。File Format Moduleは、最適な画質になるような処理を行わない分、より早くカメラの画像をPhotoshopに読み込むことができます。その場合、最適な画質になるような処理は、Photoshop上で行うことができます。

File Format Moduleやドライバ（DCS Acquire ModuleおよびDCS TWAIN Data Source）を使用しないでTIFF Custom形式の画像を直接Photoshopで開くと、低解像度のカラーサムネイル画像が表示されます。

カスタムホワイトバランス

このカメラには、カスタムホワイトバランス機能があります。このカスタムホワイトバランスの設定をドライバ（DCS Acquire ModuleまたはDCS TWAIN Data SourceのVersion 5.8以降）で保存したり、設定をカメラに読み込んだりすることができるようになりました。また、必要のないホワイトバランスの設定を消去することができるようになりました。

この機能を利用すると、同じ照明環境で撮影を繰り返し行う場合、作業時間を短縮することができます。たとえば、スタジアム内の特別な照明環境でしばしば撮影するときは、あらかじめその設定を名前を付けて保存しておくことができます。

カスタムホワイトバランスの設定を保存して、呼び出す手順は次のとおりです。

1 **グレーカードを使用し、適切な画像を撮影します。**

2 **ドライバ（DCS Acquire ModuleまたはDCS TWAIN Data Source）を使用して、ホワイトバランス設定をPCカードに保存します。**

ホワイトバランスの設定をPCカードに保存したとき、ファイル名に続いて「.wb」の拡張子が付きます。たとえば、「A0601385.TIF」というファイル名の画像のホワイトバランス設定を保存した場合、ホワイトバランス設定のファイル名は、「A0601385.wb」となります。

3 **カメラ本体でカスタムホワイトバランスを選択します。**
（1-27ページ「カスタムホワイトバランスを選択する」を参照）

4 **PCカードに保存したホワイトバランス設定を読み込みます。**
（1-30ページ「ホワイトバランス設定を読み込む」を参照）

5 **設定したいホワイトバランス設定を選択します。**
（1-28ページ「ホワイトバランスを選択する」を参照）

カメラ本体のホワイトバランスの設定を消去することができます。1-29ページ「ホワイトバランスを消去する」を参照してください。

カスタムホワイトバランスを選択する

カスタムホワイトバランスの設定を読み込んだり、選択、消去する前に、カメラ本体でホワイトバランス設定をカスタム設定にする必要があります。

1 **ホワイトバランス（W.BAL）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、ホワイトバランスのアイコンを消します。**

2 **ホワイトバランス（W.BAL）ボタンを離します。**
カスタムホワイトバランスが選択されます。

ホワイトバランスを設定する

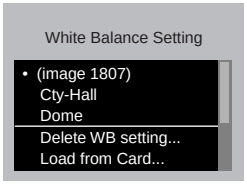
カメラ本体でカスタムホワイトバランスを選択すると、カスタムホワイトバランス機能が使用できるようになります。

1 **ホワイトバランス（W.BAL）ボタンを押します。**
カラーモニターがオフになっている場合は、オンします。
選択されているフォルダーに画像が入っていない場合は、次のような画面が表示されます。

選択されているフォルダーに画像が入っている場合は、次のような画面が表示されます。表示されている画像は、現在選択されている画像です。

2 セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、OKまたはCancel、Optionsを選択します。

- OKを選択すると、現在選択されている画像のホワイトバランス設定が、画像と同じファイル名で保存されます。その後、カラーモニターには、次の画像が表示されます。画像のホワイトバランスの設定は、OKを選択したときのみ保存されます。ホワイトバランスの設定を保存しない場合は、Cancelを選択してください。
- Cancelを選択すると、カスタムホワイトバランスの設定を終了します。
- Optionを選択すると、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。



- ホワイトバランス設定の項目を選択すると、選択したホワイトバランスに設定されます。
- **Delete WB setting...：**
  カメラ本体のホワイトバランス設定を消去します。（1-29ページ参照）
- **Load from Card...：**
  PCカードに保存されているカスタムホワイトバランスの設定をカメラ本体に読み込みます。（1-30ページ参照）

3 セレクトボタンを離します。

ホワイトバランスを選択する

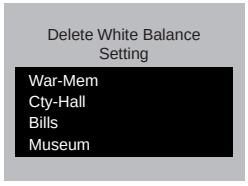
ホワイトバランス設定メニューの中から、次の項目を選択します。

- **（image #nnnn）：**
  撮影した画像から取り込んだホワイトバランス設定です。メニューには、image nnnn（nnnnは画像番号）と表示されます。
- **PCカードから読み込んだカスタムホワイトバランス設定：**
  メニューには任意の名称で表示されます。PCカードからカスタムホワイトバランス設定を読み込む方法については、1-30ページ「ホワイトバランス設定を読み込む」を参照してください。

ホワイトバランスを消去する

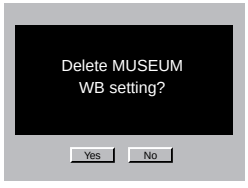
カメラ本体に読み込んだホワイトバランスの設定を消去します。

1 **「ホワイトバランスを設定する」（1-27ページ）の手順を行い、「Delete WB setting...」を選択します。**
ホワイトバランス設定消去選択画面が表示されます。



2 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、消去したいホワイトバランスの設定を反転表示させます。**

3 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
消去確認画面が表示されます。

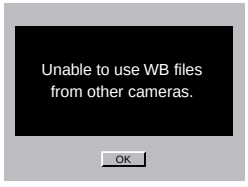
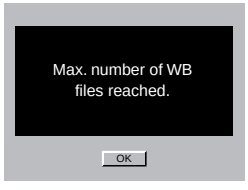


4 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、YesまたはNoを選択します。**

5 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
Yesを選択した場合は、選択したカホワイトバランスの設定が消去されます。

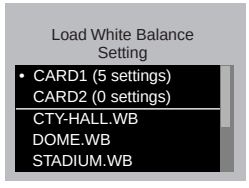
ホワイトバランス設定を読み込む

PCカードに保存されているカスタムホワイトバランスの設定をカメラ本体に読み込みます。設定をカメラ本体に正常に読み込むためには、いくつかの条件があります。条件が適合しないと以下のようなエラーメッセージが表示されます。

条　件	エラー画面
読み込むことのできるカスタムホワイトバランス設定は、このカメラで撮影した画像をもとに作成したホワイトバランスの設定のみです。	
それぞれのカスタムホワイトバランスの設定の名称は違う名称にしてください。既にカメラ本体に読み込んでいるカスタムホワイトバランス設定の名称と、同じ名称のカスタムホワイトバランス設定を読み込もうとすると、右のようなメッセージが表示されます。 ここで、Yesを選択すると、既にカメラ本体に読み込まれていたカスタムホワイトバランスの設定が新しい設定に上書きされます。	
カメラ本体に読み込むことのできるのは、10種類までです。それ以上の設定を読み込もうとすると、右のようなメッセージが表示されます。	

1 「ホワイトバランスを設定する」（1-27ページ）の手順を行い、「Load from Card...」を選択します。

ホワイトバランス設定読み込み選択画面が表示されます。



2 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、読み込むホワイトバランス設定が保存されているPCカードを反転表示させます。**

3 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
PCカードが選択され、PCカードに保存されているホワイトバランス設定が表示されます。

4 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、読み込むホワイトバランス設定を反転表示させます。**

5 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
選択した設定がカメラ本体に読み込まれます。

PCカードからホワイトバランスの設定を読み込んだときは、最後に読み込んだホワイトバランスの設定が、現在のホワイトバランスの設定になります。

インターバル撮影

指定した時間間隔で自動的に撮影するインターバルタイマー機能が搭載されました。この機能を利用することにより設定した時間間隔で特定の時間撮影を自動的に行う、インターバル撮影を行うことができます。たとえば、花のつぼみが開くところを一定時間間隔で撮影することができます。
インターバルタイマー機能では、次のような設定を行うことができます。

- 撮影するフレーム数
- 撮影時間間隔
- インターバルタイマー機能をオンにしてから、インターバル撮影を開始するまでの時間
- インターバルタイマー機能のオン／オフ

インターバルタイマー機能は、設定した画像のトータルフレーム数の撮影が終了していなくても、特定の時間が過ぎると自動的にオフになります。たとえば、撮影するフレーム数を15枚、撮影間隔を1秒に設定したとすると、カメラの性能上、バッファがフルになり、15枚の撮影が終わる前にインターバルタイマー機能が自動的にオフします。

インターバルタイマー機能がオンになっているときは、パワーセーブモード（スリープ）になりません。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

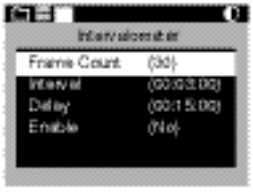
3 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、メインメニュー（Main Menu）を反転表示させます。**

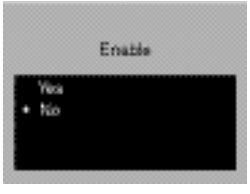
5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
メインメニューが表示されます。

6 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、インターバロメーター（Intervalometer）を反転表示させます。**

7 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
インターバルタイマー設定画面が表示されます。（ ）内に現在の設定が表示されています。



8 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、変更したい項目を反転表示させ、セレクト（Select）ボタンを離します。**
次の表のような画面が表示されます。

項　目	画　面	設定内容	
Timer Count		撮影するフレーム数を1～9999の間で設定します。 初期値は10フレームです。	
Timer Interval		撮影する時間間隔を1秒～23:59:59（時：分：秒）の間で設定します。 初期値は10秒です。	
Timer Delay		インターバルタイマー機能をオンにしてから、インターバル撮影が開始される時間を1秒～23:59:59（時：分：秒）の間で設定します。 初期値は1秒です。	
Timer Enable		Yes	インターバルタイマー機能をオンにします。
		No*	インターバルタイマー機能をオフにします。

*は初期設定値です。

時間を変更する操作については、取扱説明書2-22ページ「日付・時刻の設定」を参照してください。

消去した画像を復元する（リカバリー機能）

消去したPCカードの画像を復元することができます。ただし、消去した後で、撮影を行うと、消去した画像の上に新たに画像が保存されるため、復元できる可能性が低くなります。消去した直後であれば、復元できる可能性は高くなります。

画像を復元できるのはEOS D6000/D2000でPCカードに保存された画像のみです。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

3 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、メインメニュー（Main Menu）を反転表示させます。**

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
メインメニューが表示されます。

6 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Cardを反転表示させます。**

7 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
カードメニューが表示されます。

8 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Recover Cardを反転表示させます。**

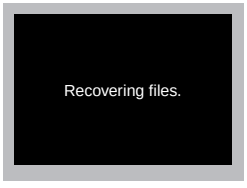
9 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**

次のような画面が表示されます。このとき、PCカード上に「Recover」フォルダーが作成されます。

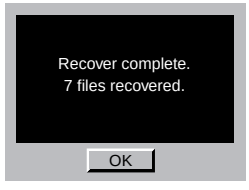
Recoverフォルダーを保存フォルダーに設定しないでください。Recoverフォルダーを保存フォルダーに設定して撮影すると、撮影した画像は「電源を入れたときの保存フォルダー」に設定されているフォルダーに保存されます。（取扱説明書10-24ページ「電源を入れたときの保存フォルダーを設定する」参照）

10 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、OKまたはCancelを選択し、セレクト（Select）ボタンを離します。**

OKを選んだ場合、消去した画像の復元処理が始まります。



復元処理が終わると、復元できた画像の枚数が表示されます。
復元された画像はRecoverフォルダーの中に保存されます。



11 **セレクト（SELECT）ボタンを押します。**

ネームプレート機能

ドライバ（DCS Acqure ModuleまたはDCS TWAIN Data Source）を使用して入力したテキストをカメラ本体のカラーモニターに表示することができます。（ネームプレート機能）
この機能は、カメラ本体の所有者を明確にするのに利用できます。たとえば「This camera belongs to Joe Smith.」と入力しておけば、このカメラの所有者はJoe Smithということが明確になります。

1 **カメラとコンピュータを接続します。**
（ドライバ説明書1-11ページ「コンピュータと接続する」を参照）

2 **ドライバを起動します。**
（ドライバ説明書1-15ページ「ドライバへアクセスする」を参照）

3 **カメラコントロールボタン（ ）をクリックします。**
カメラコントロールダイアログボックスが表示されます。

4 **「Properties」ボタンをクリックします。**

5 **System項目の中のName Plateのボックスにテキストを入力します。**
ボックスに入力できる最大文字数は、1バイト文字で50文字までです。

2バイト文字（漢字など）には対応していません。
連続した文字列の場合、約20文字となります。

6 **入力が終わったら、「Done」ボタンをクリックします。**

Name Plateのボックスに入力したテキストは、カメラ本体のカラーモニターに、次の情報とともに表示されます。

- No images in forder n
- No images in memory
- No card in camera

GPS機能

このカメラには、人工衛星を利用してカメラのロケーションの緯度と経度を測位するGPS機能がオプションで用意されています。この測位情報は、撮影したときに日付や時間とともに保存されます。これらの情報は、ドライバ（DCS Acquire ModleまたはDCS TWAIN Data Source）を使用して表示させることができます。

1 **Trimble社製の Pathfinder Type II GPS PCカードをカメラ本体のメインスロット（CARD0）に挿入します。**

GPS PCカードがセットできるのは、メインスロット（CARD0）のみです。サブスロットに挿入して、カードを選択すると、次のようなメッセージが表示されます。

このような場合は、GPS PCカードをメインスロットに挿入してください。

2 **GPS PCカードを選択します。**
PCカードを選択する方法については、1-10ページ「PCカードとフォルダーの選択」を参照してください。

3 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

4 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、メインメニュー（Main Menu）を反転表示させます。**

6 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
メインメニューが表示されます。

GPS PCカードが挿入されているときのみ、メインメニューにGPS項目が表示されます。

7 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、GPSを反転表示させます。**

8 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
次のような画面が表示され、測位が始まります。測位の結果が出るまで、約1.5分かかります。

測位が完了すると、次のような画面が表示されます。GPS Statusが Good Positionであれば、測位された情報が撮影時に画像と一緒に保存されます。

測位が完了する前に撮影された画像には測位情報「0000. 0000」が記録されます。

測位がうまくいかなかったときは、次の表のようなGPS Statusが表示されます。

GPS Status	内　容	原因／対処
Unknown.	GPS PCカードの要因で測位が行えませんでした。	対応していないGPSカードが挿入されているか、正しく挿入されていません。 正しいGPSカードをもう一度、挿入し直してください。
PDOP too High.	GPS測定（PDOPが高すぎる）エラーです。	対応していないGPSカードが挿入されているか、正しく挿入されていません。 正しいGPSカードをもう一度、挿入し直してください。
No GPS Time.	人工衛星からの信号が受信できません。	少したってからもう一度、測位してみてください。
No Satellites.	人工衛星からの信号が弱く、測位できません。	少したってからもう一度、測位してみてください。
1, 2, or 3 satellites	GPSの測位には4つの人工衛星からの信号が必要です。3つ以下の信号では測位できません。	少したってからもう一度、測位してみてください。

これらの測位できない状態がいつまでも続く場合は、人工衛星がビルや木などの障害物でさえぎられていることが考えられます。場所を変えて、もう一度測位してみてください。

9　測位が終わったら、セレクト（SELECT）ボタンを押します。

GPS機能を併用して撮影を行った場合、撮影画像内上端に左揃えでGPSデータが表示されます。

- GPSカードのアンテナ部分には強力な磁力がついていますので、これをHDカードやカメラ本体に近付けないようにしてください。
- GPSカード併用時にはPCカード室フタを開けての使用となります。この際、ホコリ・水等がPCカード室に入らないようにご注意ください。

IPTCデータ対応

この機能は、国際新聞電気通信評議会（IPTC）の基準に準拠したIPTCデータを画像のヘッダーに付け加える機能です。IPTCデータは、ドライバ（DCS Acqure ModuleまたはDCS TWAIN Data Sourceのバージョン5.8以降）を使って入力し、PCカードに保存することができます。

PCカードに保存したIPTCデータをカメラ本体に読み込む方法については1-42ページ「IPTCデータをカメラに読み込む」を参照してください。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

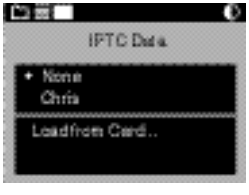
3 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、メインメニュー（Main Menu）を反転表示させます。**

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
メインメニューが表示されます。

6 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、IPTCデータ（IPTC Data）を反転表示させます。**

7 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
IPTCデータ画面が表示されます。



8 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、項目を選択しセレクト（SELECT）ボタンを離します。**

- Noneを選択すると、画像のヘッダーにIPTCデータが追加されません。
- 既にカメラに読み込まれているIPTCデータファイルを選択すると、画像のヘッダーに選択したIPTCデータが追加されます。
- Load from Card...を選択すると、PCカードからIPTCデータをカメラに読み込みます。

IPTCデータをカメラに読み込む

PCカードに保存されているIPTCデータをカメラに読み込みます。

1 **前項（1-41ページ）の手順を行い、「Load from Card...」を選択します。**

IPTCデータ読み込み選択画面が表示されます。

2 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、読み込むIPTCデータが保存されているPCカードを反転表示させます。**

3 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**

PCカードが選択され、PCカードに保存されているIPTCデータが表示されます。

4 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、読み込むIPTCデータを反転表示させます。**

5 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**

選択したIPTCデータがカメラ本体に読み込まれます。

それぞれのIPTCデータは違う名称にしてください。既にカメラ本体に読み込んでいるIPTCデータの名称と、同じ名称のIPTCデータを読み込もうとすると、既にカメラ本体に読み込まれていたカスタムホワイトバランスの設定が新しい設定に上書きされます。

シャープニング機能

このカメラには、カメラ内のミラーの前に、赤外カットローパスフィルターが装着されています。このフィルターを装着した状態で撮影すると、デジタルカメラ特有の擬似色現象やモアレ現象などが抑えられますが、画像のシャープさが若干失われます。これを補正するためにシャープニング機能を使用します。たとえば、人物写真のようなシャープさは必要としないが、簡単な装備でシャープな画像を得たいときなどです。この方法は、赤外カットローパスフィルターを外して撮影するよりも簡単に行えます。

- シャープニング処理機能は、ドライバ（DCS Acquire ModuleまたはDCS TWAIN Data Source）で設定します。
- 赤外カットローパスフィルターを装着していないときと比べて、レンズの動作が多少変更になります。
- ズームレンズを使用している場合、マニュアルフォーカスにすると、ピントが合った状態でズーム焦点距離を変更すると、ピントがずれることがあります。この現象は、被写体に近づいてピントを合わせてから、ズームレンズの焦点距離を長くする（ズームアウト）すると起こります。この問題は最初に焦点距離を決め、ピントを合わすことで簡単に解決できます。

カメラ本体の設定

赤外カットローパスフィルターの装着状態をカメラ本体のプロパティで設定します。初期状態は「Installed」に設定されています。カメラ本体から赤外カットローパスフィルタを取り外した場合は、プロパティを「Removed」に設定してください。
赤外カットローパスフィルターの取り付け、取り外しについては、取扱説明書9-4ページ「赤外カットローパスフィルターの清掃」を参照してください。

この機能はEOS D6000では既にサポートされています。EOS D2000ではプロパティ設定では「Removed」固定になっています。

1 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押します。**
カラーモニターがオンします。

2 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、メニューアイコン（☰）を反転表示させます。**

3 **ドロップダウンメニューが表示されるまで、モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけます。**

4 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを押しつづけながら、サブ電子ダイアルを回して、プロパティ（Properties）を反転表示させます。**

5 **モニター表示／メニュー（DISP/MENU）ボタンを離します。**
プロパティメニューが表示されます。

6 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Antialiasing Filterを反転表示させます。**

7 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
赤外カットローパスフィルター設定画面が表示されます。

8 **セレクト（SELECT）ボタンを押しながら、サブ電子ダイアルを回して、Removed（未装着）またはInstalled（装着）を選択します。**

9 **セレクト（SELECT）ボタンを離します。**
選択した項目が選択されます。

ドライバの設定

ドライバの環境設定で、ドライバに取り込む画像をシャープニング処理するかどうかを設定します。
次のような設定が選択できます。

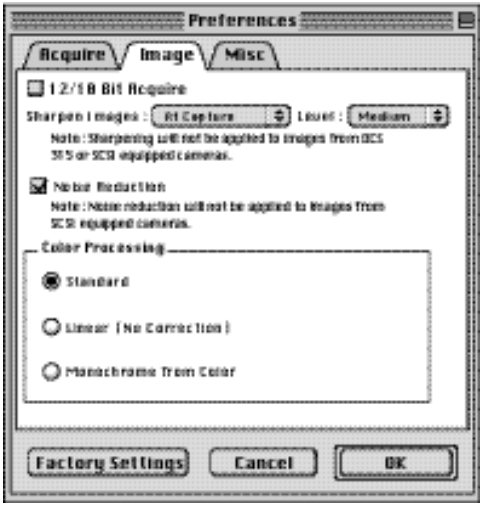
- **At Capture：**
  カメラ本体の設定に従ってシャープニング処理します。「Installed」で撮影された画像は、シャープニング処理されます。「Removed」で撮影された画像は、シャープニング処理されません。
- **On：**
  取り込むすべての画像をシャープンニング処理します。
- **Off：**
  いずれの画像もシャープニング処理しません。

カメラ本体の設定については、1-44ページを参照してください。

1 **カメラとコンピュータを接続します。**
（ドライバ説明書1-11ページ「コンピュータと接続する」を参照）

2 **ドライバを起動します。**
（ドライバ説明書1-15ページ「ドライバへアクセスする」を参照）

3 **環境設定ボタン（ ）をクリックします。**
環境設定ダイアログボックスが表示されます。



4 **「Sharpen Images」の左側の項目をクリックし、「At Capture」「On」「Off」の中から設定を選択します。**

5 **「Sharpen Images」の右側の項目をクリックし、「High」「Medium」「Low」の中から設定を選択します。**

シャープニング効果は、Highがいちばん強く、Lowがいちばん弱くなります。

6 **設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックします。**

カメラ本体とドライバの設定状態によって、シャープニング処理は次の表のようになります。

カメラ本体の設定	ドライバの設定		
	At Capture	On	OFF
Installed（装着）	○	○	×
Removed（未装着）	×	○	×

○：シャープニング処理される
×：シャープニング処理されない

EOS D2000ではSharpning機能を使う場合、ドライバの設定をOnにします。

第2章
マニュアルの改訂

この章では、ドライバ説明書および取扱説明書で改訂した内容を記載しています。改訂した内容は、EOS D2000に該当するもの、EOS D6000に該当するもの、両方に該当するものがあります。

ドライバ説明書の改訂

次の表はドライバ説明書の改訂部分をまとめたものです。

EOS D2000

ページ	改訂内容
1-2	**動作環境の確認** Macintoshでの動作環境　メモリ：EOS D2000の場合、Photoshopを使うには32MB必要（64MBを推奨） Windowsでの動作環境　メモリ：EOS D2000は32MB必要（64MBを推奨）

EOS D6000

ページ	改訂内容
1-2	**動作環境の確認** Macintoshでの動作環境　メモリ：EOS D6000の場合、Photoshopを使うには64MB必要（128MB推奨） Windowsでの動作環境　メモリ：EOS D6000は64MB必要（128MBを推奨）

EOS D6000 および EOS D2000

ページ	改訂内容
1-2	**動作環境の確認** Macintoshでの動作環境 ・MacOS 8.1以上 ・PowerPCプロセッサー（100MHz以上）を搭載したApple Macintoshコンピュータ ・空きハードディスク容量：100MB必要（200MBを推奨） Windowsでの動作環境 ・Windows95、Windows98、またはWindows NT 4.0以上 ・Pentiumプロセッサー（100MHz以上）を搭載したパーソナルコンピュータ ・空きハードディスク容量：100MB必要（200MBを推奨）

取扱説明書の改訂

次の表は取扱説明書の改訂部分をまとめたものです。

EOS D6000

ページ	改訂内容
第10章 付録	EOS D6000では、赤外カットローパスフィルターの装着設定が追加されました。詳しくは、1-43ページ「シャープニング機能」を参照してください。

EOS D6000
および
EOS D2000

ページ	改訂内容
2-4	**Ni-Cd電池の充電** 電源の準備　充電環境温度：10～40℃ （推奨温度：10～35℃） Ni-Cd電池を充電する　保管環境温度：-23～65.5℃ （推奨温度：-25～65℃）
3-16	**露出の補正方法** 以下のメモ文を追加： サブ電子ダイアルは、露出補正を補正後数秒間、操作することができません。撮影後すぐに設定を変更する場合は、設定変更が可能な状態か確認してください。
3-21	**AEB撮影** ・セルフタイマーを併用したときは、2秒または10秒後に、自動的に3コマ連続撮影されます。 ※上記の文章を下記に変更 ・3コマ連続撮影するには、ドライブモードを必ず連続撮影に設定して、3コマ撮影するまでシャッターボタンを押し続けてください。
4-11	**深度優先AE撮影** 以下のメモ文を追加： カメラをコンピュータと接続している状態で深度優先AE撮影するときはご注意ください。被写体の1点目と2点目の構図を決めた後、シャッターボタンを半押しして、カメラ側で設定することをお勧めします。このような状況では、コンピュータ側からシャッターボタンを押す操作はしないでください。